

## 【第2回開催レポート\_かごしまSwitch 未来企画室】

開催日時：2018年9月22日（土）10:00～16:00

場所：みなと大通り別館6階会議室

参加者数：29名（欠席は6名）

内容：

### 1) 導入

#### ●前回の振り返り

※第1講を欠席された方は9:15より

約30分間の補講を行いました

第1講で行ったことを全員で振り返る

#### ●皆さんへのお願いを共有

①積極参加（反応3割増し）

②前向き参加（やわらか発言）

③リラックス参加（飲食・入退室自由）



#### ●今日の目的の共有

まずは第2講の目的を共有。約6時間の中で進めていくプログラムがそれぞれどんな目的のもとでやっているのかを都度確認していく。

①未来のイメージを具体化する／②課題をシステムとして認識する／③システム図を作成してみる

#### ●アイスブレイク

場と身体と緊張などをほぐしていくために、簡単なゲームを行う

#### ●自己紹介

会場全体一円となり、1人40秒程度で「お名前・呼ばれたい名前・普段やっていること（お仕事+仕事以外で取り組んでいること・関心のあることがあれば）」をぐるりと共有。参加者名簿一覧を配布しない代わりに、この場にどんな人がいるかを知り合う時間をとりました。

### 2) 理想の状態を言語化する（=今日の目的①未来のイメージを具体化する）

第1講の最後に書いた「実現したいこと／起こしたい変化」をもとに、より自身の理想を具体化する時間として、3人グループをつくり『スコアキング』というワークを行う。

- ①step1「私の実現したい（追い求めている）理想の状況」についてまずは1人で1分間妄想してみる（頭の中で想像する、あるいは紙に書き起こしてみるでもOK）
- ②step2「その理想に対して現実はどうか」について1人で1分間妄想してみる

- ③右記のA3サイズのワークシートの中心には『あなたが実現したい理想の状況』  
『理想に対して現実は...』と書かれた2つ

あなたが実現したい理想の状況	【理想に対して、現実...】

の枠がある。step1,2の時間で妄想したことをそれぞれの枠のなかに書き出してみる。

④グループ内で自分が記入したワークシートを交換し、書かれた内容について質問を記入していく（質問については枠外のスペースを利用する）。アドバイスではなく、“質問”を通して理想を具体化していく。

（質問例）※ポイントは語尾が「？」で終わること。感想ではなく、質問をする。  
なぜこうなったのか？どうすればそうなるか？／具体的にはどんなサービス？商品？どんな状態？／それが必要なのは誰？誰が困っている？／誰が喜ぶ？それができないのはなぜ？等

⑤3人から質問が記入されたワークシートが最終的に自分の手元に戻ってくる。記入された質問に対して、回答（自分の考え）を記入していく。  
⇒さらにそれをグループ内で回していくことで、自分が質問した内容についての回答を読み、応援メッセージや協力できること等を記入していく。

⑥ワークをやってみての感想をグループで共有。

#### 《ワーク『スコーキング』を行う意図》

はじめに記入した「理想と現実」はあくまで抽象的かつ概念的であることが多い。そこを質問されることで具体化していく時間。かつ、口で話すのではなく、書き込んでいくことで頭も整理されていくし、手元に残っていくことがポイント。



### 3) この場で扱うテーマに分かれる（=今日の目的 ①未来のイメージを具体化する）

この後、実際にある事柄をもとにシステム図を作成していくにあたって、この場で扱いたいテーマ（私が具体的に取り組みたいテーマ）について先着6~10名で募集を行った結果、9名のテーマが上がったため、関心のあるテーマに1テーマ3~4人程度で分かれた。

#### ●この場であがった9つのテーマ

- ①かごまふるさと屋台村が閉じる残り2年間（～2020年12月）をどうしたらいいか
- ②桜島に移住した山下家が『ステキファミリー』になるには？
- ③桜島をテーマに皆に喜んでもらえる看板をつくりたい
- ④高齢者に対して「元気で長生きしてくださいね」と心から言える社会
- ⑤大隅半島 東串良を広く知ってもらう
- ⑥桜島に有料のガイド文化をつくる
- ⑦発達障害カフェを作って自分らしく生きていくために
- ⑧プロバイダじゃないシナプスをつくる
- ⑨ネット社会のなかでも放送局が地域の人、さらに国民そして世界へ情報を出す基地となる

#### 4) 課題の「原因」と「結果」を探る（=今日の目的②課題をシステムとして認識する、③システム図を作成してみる）

☆システム思考とは、原因と結果を分解・整理して全体像を把握すること。

①まずはそれぞれのテーマが抱える「課題」を付箋に書き出す。

②「システム思考」について知るための例題を紹介。  
（資料を2部配布。※HPからダウンロードできます）

③原因と結果を整理する。  
あがってきた課題の付箋をもとに、課題の相関関係を整理する。課題に対して「なぜ（=原因）」を追求しながら付箋をつなげていく。そのプロセスのなかで新たに課題や原因が出てきた場合は付箋を追加し、つなげていく。



④整理した状況にタイトル（「○○問題」）をつける。  
完成したシステム図を眺め、特に「本質的である」と思える課題をもとに「○○問題」という形で「課題」を言語化することが重要。

#### 《『システム思考』のポイント》

重要なのはあくまで「仮説である」ということ。必ずしも答えが出るわけではなく、課題の背景にあることを整理することでより本質的な課題を見つける手段となるのがシステム思考。

例えば、Aさんが1人で整理したシステム図をチームの中に持ち帰る。  
チームメンバーに、Aさんが考えていることを伝えるための材料になる。  
それを見たチームメンバーのBさんやCさんが「僕はこう考えるなあ」と意見が加わり、新たなシステムが見えてくる。無数につながるシステムと、あくまでここに出てくるものは"仮説"であるということ。

#### 5) 小さな一歩 10のアイデアについて考える（それぞれのテーマごとで）

ある程度完成したシステム図をもとに、本質的な課題に対して自分たちができる小さな一歩（=仮説）を10個アイデア出しを行う。

※それぞれのテーマで整理された「システム図」「タイトル（○○問題）」「小さな一歩 10のアイデア」は別添参照。

#### 6) 今日の感想を共有

各グループで今日の感想を一人一言ずつ共有する。

#### 7) 次回について事務連絡

次回第3講（10/13）は、ゲスト講師 テンダー氏をお呼びして、『観察』というテーマについて扱っていく。現場に潜んでいる課題、その現場を見る際のポイントや技法について学ぶ。また、プロトタイプ（試作）をつくり、小さな一歩を踏み出してみる時間。

※プロトタイプづくりに、実験として、さまざまな機能を持ったブロック形状の電子タグ  
『MESH』を使ってみます！MESH（メッシュ）についてはぜひネットで「MESH 電子タグ」と検索してみてください。

※ゲスト講師のテンダー氏のプロフィールについてはこちら

【テンダー】ヨホホ研究所主宰。一般社団法人その辺のもので生きる代表理事。

火起こしから電子回路まで、先人の技術を引き継ぐ1万年目のこども。環境問題や争いを解決する手段として、先住民技術と対話を重んじる。職業はヒッピー。  
電気・水道・ガス契約ナシの年間家賃1万円の家、て一庵に暮らし中。

KTS鹿児島テレビによる1時間特番「テンダーの思い」が九州民放祭で優秀賞受賞、FNSドキュメンタリー大賞2015優秀賞受賞。

南日本新聞「南点」欄にエッセイ連載、大好評のうちに2015年末に終了。

2016年より連載「金峰発！ テンダーの陽気な方法研究所」がスタート、現在に至る。

2015年7月に版元を設立。処女作となる「わがや電力～12歳からとりかかる太陽光発電の入門書」出版。重版御礼、ウェブ直販でこれまでに6500部を販売。

2017年、鹿児島県南さつま市金峰町の廃校にて、ファブラボ「ダイナミックラボ」をスタート。

先住民技術から最新のデジタルファブリケーションまで、問題を解決するためのありとあらゆる技術に触れられる場所を目指して創設。廃材、間伐材などの利用をベースに、日々技術的な引き出しを増やすために勉強中。

当日の様子：



以上